

#### 4 農業

##### ○ 管内農業の主要指標

### 農業産出額(H26)

※単位：億円

	米	畜産	野菜	果実	花き	その他	計
鹿角市	18.1	45.7	8.8	7.6	1.9	3.5	85.6
小坂町	2.1	20.7	0.8	0.2	0	0.3	24.1
計	20.2	66.4	9.6	7.8	1.9	3.8	109.7
全県	773	332	235	63	27	43	1,473

全県：農林水産省「生産農業所得統計」

鹿角市及び小坂町：農林水産省推計(H28年12月)を基に  
鹿角地域振興局農林部が作成

※「0」は1億円単位に満たないもの

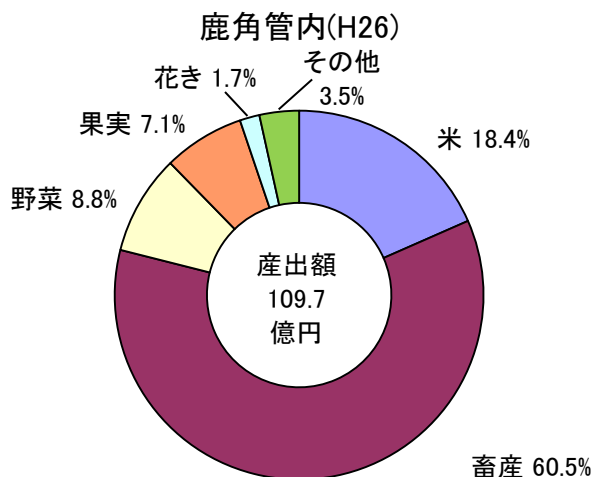
### 農家戸数及び人口

項目	鹿角市	小坂町	計	秋田県	全県シェア
農家数	2,189	249	2,438	49,048	5.0%
販売農家数	1,607	165	1,772	37,810	4.7%
主業農家数	267	17	284	7,739	3.7%
準主業農家数	477	50	527	9,590	5.5%
副業的農家数	863	98	961	20,481	5.4%
認定農業者数	316	33	349	10,525	3.3%
農業就業人口	2,253	246	2,499	54,827	4.6%
集落型農業法人数	14	2	16	258	6.2%

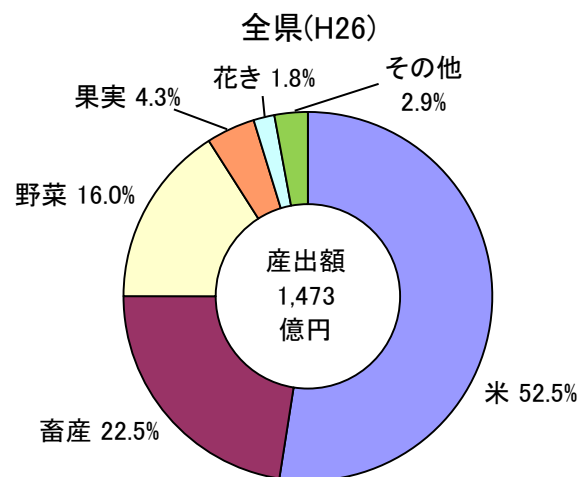
農林水産省「2015年世界農林業センサス」

認定農業者(H28年12月)・集落型農業法人数(H28年12月末)は、鹿角地域振興局農林部調べ

- 鹿角地域における作物別農業産出額割合を見ると、畜産の割合が60.5%、果実の割合が7.1%と、全県における割合を上回っている。畜産については、企業養豚の産出額が大きい。



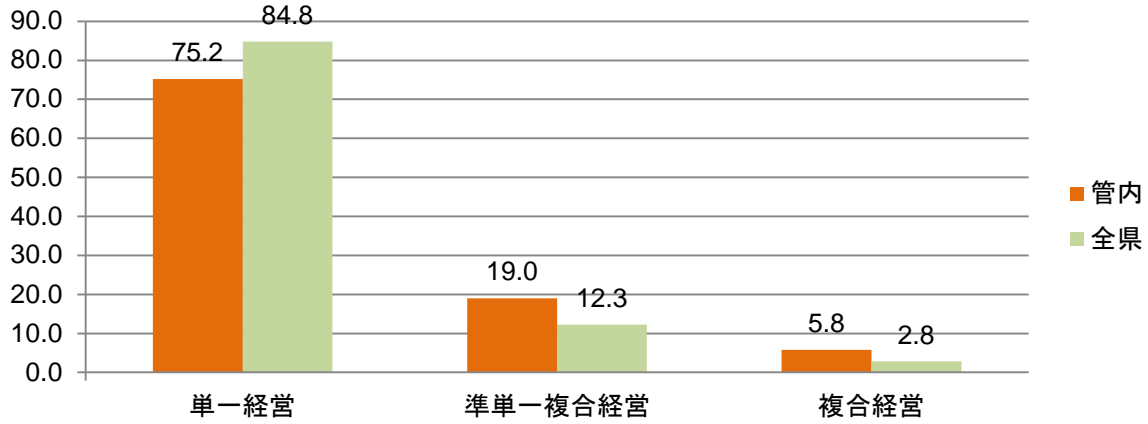
農林水産省推計を基に  
鹿角地域振興局農林部が作成



農林水産省「生産農業所得統計」

- 管内の農家を営農形態別に見ると、全県に比べて稲作を中心とした単一経営の割合が低く、果樹や露地野菜を取り入れた複合経営の割合が高い。

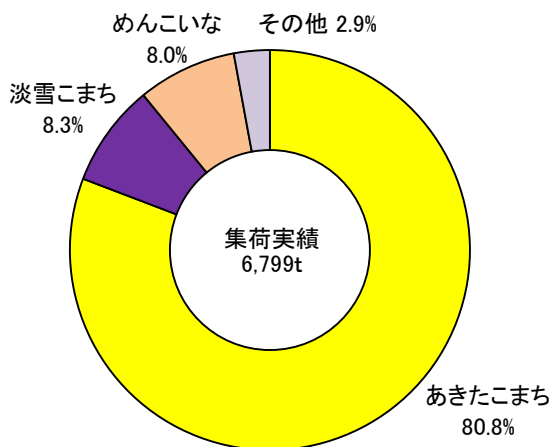
営農形態別農家割合（単位：％）



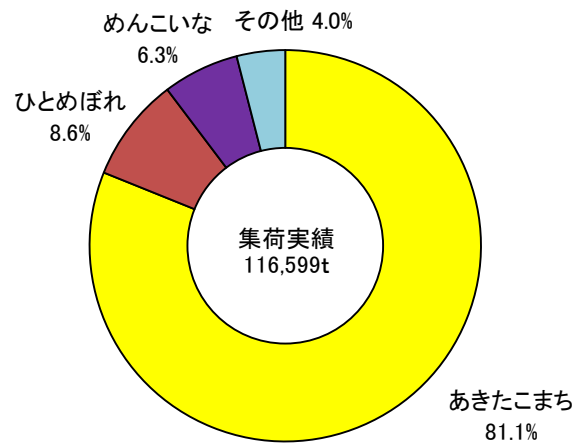
農林水産省「2015年世界農林業センサス」

- ・単一経営：主位部門の販売金額が8割以上の経営
- ・準単一複合経営：主位部門の販売金額が6割以上8割未満の経営
- ・複合経営：主位部門の販売金額が6割未満の経営

- 平成28年産米の銘柄別集荷実績によると、全県における割合との比較において、鹿角地域の「あきたこまち」の割合は全県とほぼ同程度である。
- 鹿角地域のブランド米である「淡雪こまち」は、全県集荷量の約9割が鹿角地域から集荷されている。

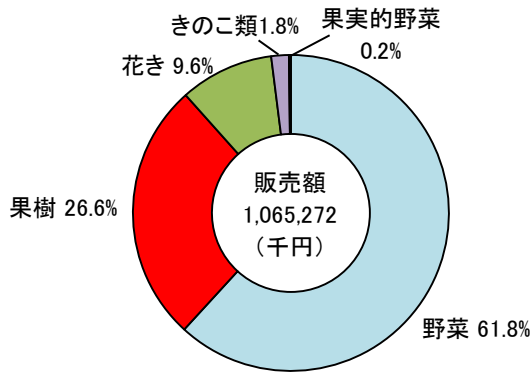


JA かつの管内(H28年産米)  
JA かつの提供資料より作成



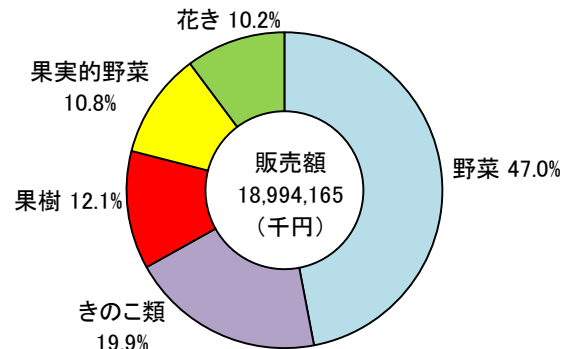
全県(全農系)(H28年産米)  
秋田県産米改良協会資料より作成

- 平成 28 年度の J A 販売額（米を除く農産物）をみると、全県における割合との比較において、鹿角地域では「野菜」「果樹」の割合が高い。



JA かつの管内 (H28 年度)

全農生販計画より作成



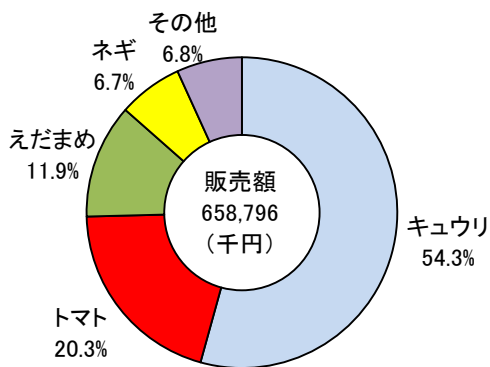
全県 (JA 販売額) (H28 年度)

全農生販計画より作成

※果樹:概ね 2 年以上栽培する草本植物及び木本植物であって、果実を食用とするもの。

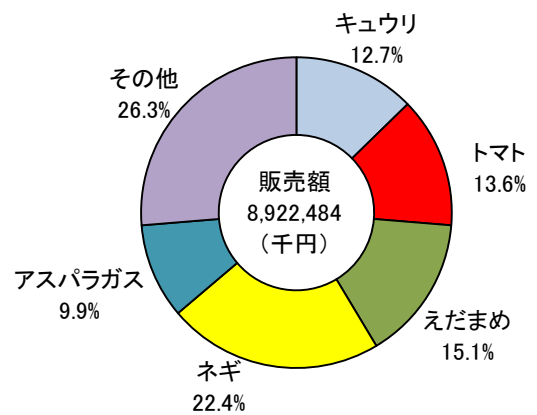
※果実的野菜:メロン、スイカ、イチゴなど、一般的に果物として売られているが、野菜に分類されるもの。

- 平成 28 年度の J A 販売額（野菜）によると、全県における割合との比較において、鹿角地域では「キュウリ」「トマト」の割合が高い。



JA かつの管内 (H28 年度)

全農生販計画より作成



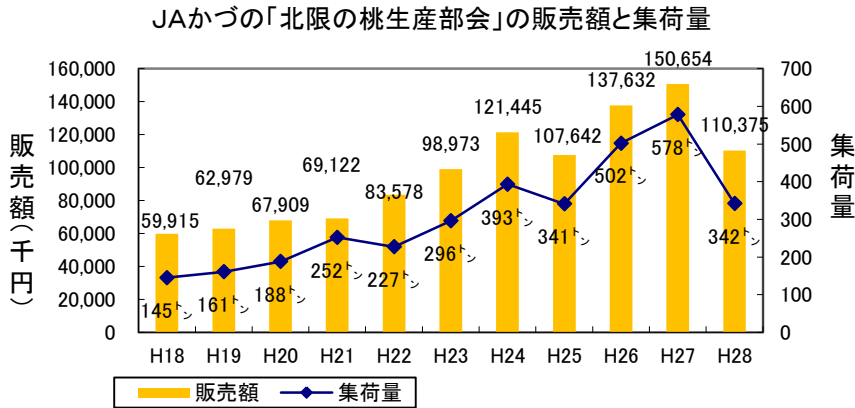
全県 (JA 販売額) (H28 年度)

全農生販計画より作成

○ 鹿角地域の主な農業特産品

(1) 「かづの北限の桃」

- ・ 鹿角地域の冷涼な気候を味方に、主力品種である「川中島白桃」は、9月中旬から下旬と全国でも最も遅い時期の出荷となっており、糖度の高さからも市場における評価が高い。
- ・ 平成28年は、5月の降雹（ひょう）害、8月の台風の影響もあり集荷量342ト、販売額110,375千円であった。栽培面積は平成15年比で約1.9倍（H15:33.7畝→H28:65畝）となっており、地域を挙げたブランド化の取組が進められている。



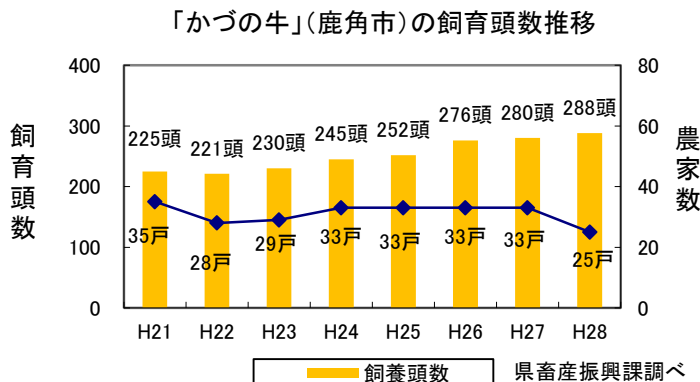
ブランド化が進む「かづの北限の桃」

JA かづの提供資料より作成

(2) 「かづの牛」

- ・ 日本短角種である「かづの牛」は、黒毛和種に比べ脂身が少ない赤身肉であり、近年その価値が再評価され注目が集まっている。
- ・ そのため、県では、平成25年度から畜産農家に対して草地畜産基盤整備事業（国庫補助事業）により公共牧野の草地造成・改良、牛舎の整備など支援を行っている。
- ・ 振興局では、平成23年度から「かづの牛」の生産振興を重点施策の一つに位置づけ、消費拡大対策等を実施している。

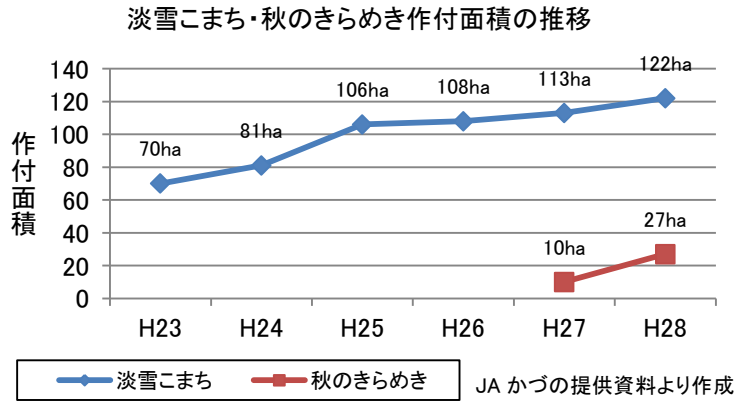
※ 日本短角種は、子牛・枝肉価格が黒毛和種より安いいため、当地域では生産者の高齢化や飼養品種切り替えにより平成22年度まで戸数、頭数の減少が続いていたが、鹿角市では、「かづの牛」の増頭計画を定めて生産基盤の整備に取り組んでいる。



夏山冬里方式により肥育される「かづの牛」

(3) 「淡雪こまち」・「秋のきらめき」

- 鹿角地域のブランド米として生産が進められている「淡雪こまち」は、「低アミロース米」の特徴である「もちもち」「ふっくら」した食感が味わえる。
- 平成 27 年度にデビューした期待の新品種「秋のきらめき」は、「あきたこまち」並の良食味で炊飯した米には輝く白さがある。



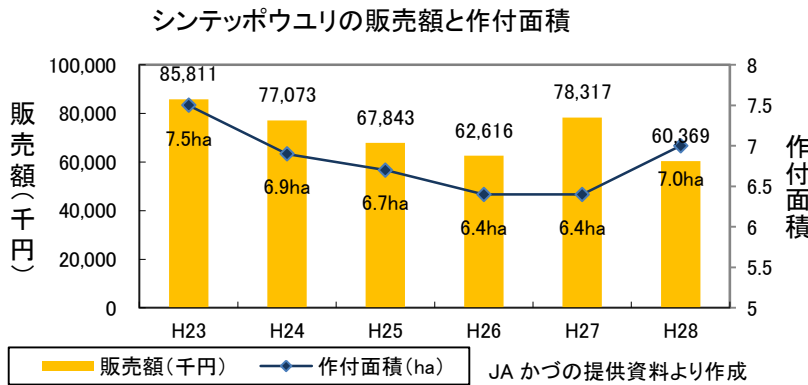
鹿角地域ブランド米「淡雪こまち」



新品種「秋のきらめき」

(4) 「シンテッポウユリ」

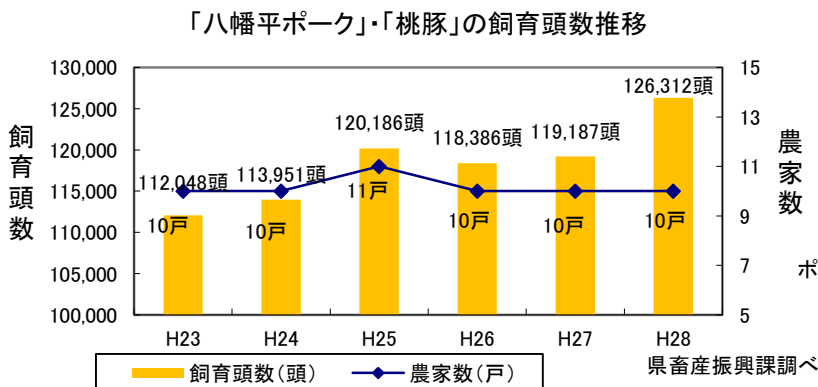
- 種を蒔いてから一年で花を咲かせるユリ。一年目は秋彼岸頃に収穫期を迎え、その後は球根をそのままほ場で越冬させる。二年目にはお盆頃に収穫となる。
- 鹿角地域の気候に適しており県内一の生産量を誇っている。



「シンテッポウユリ」

(5) 「八幡平ポーク」・「桃豚」

- 企業経営による養豚が盛んで、「八幡平ポーク」・「桃豚」といった有名ブランドがある。
- 飼料用米の供給や、糞尿の堆肥化によるリサイクルなど、耕種農業との連携が進んでいる。



ポークランドグループのブランド豚「桃豚」